

CO₂ 削減に貢献する嫌気性廃水処理装置 「PANBIC-H」

有機性廃水の処理では空気を吹き込んで微生物により有機物を分解する「好気処理」が広く使われていますが、この方法は曝気動力の費用が大きいのが難点でした。これに対して、空気を必要としないだけでなく、有機物からメタンガスを生産し、ボイラーや発電機の燃料として活用できるのが「嫌気処理」で、有機物濃度の高い廃水で特に大きな省エネルギー効果を発揮します。

1990年代前半には「上向流嫌気性汚泥床 (UASB)」という方式が嫌気処理の主流となっていましたが、これをさらに発展させたのが「PANBIC-H」です。微生物の流出防止機構を極限まで小型化し、従来比 1/2 ~ 1/3 というコンパクトな設備での処理が可能となりました。ビールなどの飲料や食品工場を主体に、数多くのユーザーにお使いいただいています。

